

恵風だより



令和2年5月30日発行 No.2

「コロナ後」を考える

校長 坂井 廣幸

新型コロナウイルス感染症は、国内はもとより世界中に広がり、多数の死者を出しました。WHOは3月11日に、このウイルスの感染状況は「パンデミック」であると発表しました。コロナウイルスの感染拡大はこれまでもありましたが（SARSやMERS）、パンデミックという言葉が使われた感染流行は今回が初めてとなります。ここまで感染が拡大するとは、今年初めには思いもしませんでした。

このコロナウイルス感染流行は様々なことに影響を及ぼしました。オリンピック・パラリンピックは来年に延期となりましたし、多くのプロスポーツ競技も中止となり、ファンをがっかりさせています。学校は2月27日に突然、臨時休校の要請があり、異例なほど長い春休みとなりました。4月16日には全都道府県に緊急事態宣言が発令されました。岩手県は幸いなことに、現在まで陽性患者が出ていないので県内の学校は感染対策を行いながらも、通常の教育活動を行っています。しかし感染の恐れから中止となる学校行事もあり、本校では運動会が中止となりました。

5月25日に緊急事態宣言は全都道府県で解除となり、感染は収束に近づいています。しかし、まだ特効薬もワクチンも開発されていない現在、感染の恐れがなくなったわけではありません。私たちは感染予防対策を継続する「コロナ後」の生活を歩んでいかなければなりません。多数の児童生徒が密集する行事などの「3密」の活動は避ける必要がありますし、その他にも感染リスクを考慮して教育活動を実施していかねばなりません。

「ソーシャル・ディスタンス」という言葉が今回使われるようになりました。人と人の距離をあけることを意味するようですが、これからは買い物をする場合でも、人との距離を意識したり、生活のいろいろな場面で「コロナ前」とは違いが見られるでしょう。個人的には、今後この変化が人間関係を希薄にするのではないかと心配です。最近、直接会わずに離れてコンタクトを行うことが推奨される傾向にあります。相手に考えを伝える場合には、距離が離れていると意思を伝えるのが難しくなります。スマホを見ながら会話する人が増えている時代です。このような傾向が強まるとコミュニケーション能力が苦手な人が増えてくるかもしれません。今回の新型コロナは収束したとしても、これからも人間関係に影響を及ぼすある種の「感染」は続いていくような気がします。

< 4・5月の学校行事から >

高等部手芸班マスク製作→小学部へプレゼント

新型コロナウイルス感染症拡大防止を目指し、高等部手芸班8名がマスクを作りました。さらしの上に布を縫い付け、カラフルに仕上げました。そのマスクを小学部にプレゼントしました。健康の維持はもちろんのこと、学部間交流にも大きな効果がありました。次回は中学部へプレゼント予定です。



中学部入学を祝う会（4月17日）

新入生を中学部の仲間としてあたたかく迎えともに楽しむことができた素敵な時間になりました。



高等部対面式（4月14日）

テレビを使って行いました。新入生の自己紹介や部活動紹介を通して、生徒相互の理解を深め、仲間意識の高揚を図ることができました



頑張ってるね！！ ～小学部の活動から～



図画工作共同作品

「恵風の桜」製作中



学級目標作り



遊びの学習